

令和6年度第2回「OPEN！みんなで話そう！やまさき市長とともに」概要

日 時	令和6年10月5日(土)10:00～12:00
場 所	中央公民館 203・204 学習室
テーマ	みんなでつくる 文化芸術のまち 宝塚
出席者	市民13名
	山崎市長、市民交流部職員4名、産業文化部職員5名

1. 開会

- (1) 市長挨拶
- (2) 本日の流れについての説明
- (3) 自己紹介

2. 市民と市長との意見交換

- (1) 産業文化部によるテーマの説明(20分程度)
- (2) 意見交換

- ア 【司会】本日のテーマである「みんなでつくる 文化芸術のまち 宝塚」についてご意見をいただきたい。
- イ 市役所から阪神競馬場に向かう県道の街路樹が伐採された。伐採後は花壇に整備されたが草がたくさん生えている。近隣の有志の方が自分で花の苗や種を準備して花壇に花を植えている。市から花の苗や種を提供していただきたい。それができないなら、花壇をなくして歩道として整備してほしい。
- ウ 【市長】公園というくくりで、市民の方々にグループになっていただき、公園として花壇の管理をしていただいた場合は補助ができる仕組みがある。その制度が使えるか、担当部署に確認する。
- エ 不登校支援活動を行っている。不登校児童は小学生で 171 名、中学生で約 300 名いる。不登校児童は家にいることが多い。家にいるということは母親からすると大変辛いことである。文化芸術の活動は家の外に出やすいのではないかなと思う。市内には音楽家や舞台関係者の方がいらっしゃるということだったので、教えてもらえる機会や外に出るきっかけとなる文化芸術のイベントがあれば嬉しいと思う。
- オ 【市長】宝塚市の考え方として、学校に行く手前のいくつかの居場所からだんだん学校に近づいて、一人一人の特性を尊重しながらやっていきたいと考えている。文化芸術活動は一番外に出やすいし、興味を持つとそこにいろいろなものを見出すことができる。昨年度に不登校児童等を対象にして宝塚歌劇の市民貸切公演を予定していたが、公演が中止になってしまったため、改めて実施したいと思っている。また、東京都の文化芸術施設を視察した際に、絵具を自由に投げながら絵を描く方にお会いして、不登校児童や養護学校の生徒に向けたワー

クショップをしているとおっしゃっていた。技術を持っていなくても楽しめる、楽しめたらまた行ってみようとして少しずつ外に出るきっかけになる。このような文化芸術で不登校児童が外に出ていけるようになればと検討しているため、いい案があれば教えていただきたい。

カ 数字でも表れているように、宝塚市には様々な分野の芸術家の方がいらっしゃるし、市民として文化芸術活動をされている方もいらっしゃる。市内のイベントの日程が重なってしまうと行きたいイベントに行けないことがある。また、イベントの情報発信をしても市民全員に届かない。分野別にソートをかけた市内で行われるイベントの一覧を用意してほしい。市民皆が情報収集できる仕組みがあれば、主催者側も日程が重ならないように企画できるし、参加者側もイベントの情報を把握しやすくなると思う。そうすることで様々な分野に繋がって、発展していくのではないかなと思う。

キ 【市長】市が後援をしているイベント一覧は用意している。現在、広報担当課でイベントカレンダーを活用した新たな試みを検討している。イベントを知ってもらい、イベント日程が重なることが減るように「ともに発信する」を実現したいと思う。

ク 短歌を作っており、歌集も出版している。宝塚市内にもナチュラルスパの近くに与謝野晶子氏の歌碑がある。小学校の授業でも短歌の学習をしている。小学生を巻き込んで短歌の文化を宝塚市で広めることが出来れば風流、情緒のある子どもが育つのではないかなと思う。短歌を学べる場所ができたり、学校にも提案できたらいいと思う。

ケ 【市長】短歌は日本ならではの素晴らしい文化である。子どもたちには文化活動を知って体験してもらうことは大切だと思っている。阪急阪神ホールディングスとの包括連携協定の取り組みで阪急逆瀬川駅の切符売り場近くに掲示板を設置して、子どもたちが作った川柳を季節の絵と一緒に飾っている。子どもたちが経験を通して、自分自身の将来や心の拠り所が見つかっていくと思うので、短歌も取り入れた取り組みを行っていききたいと思う。

コ 文化芸術センターを今後どのように活用していくのかということが課題だと思っている。今年7月の文化芸術によるまちづくり講演会の質疑応答の際に、「今後文化芸術センターはどのようにしたらいいか」という質問に対して、「宝塚市を象徴するものをつくる」「市民に喜んでもらえることを考える」という回答であった。今後市長はどのようにされるのかということを伺いたい。宝塚市は市内の至る所に文化活動があって、小さな団体であっても充実した活動をされていて素晴らしいと思う。

サ 【市長】文化芸術センターは金沢21世紀美術館を参考にしている。文化芸術センターはどこに軸足を置くのかということが重要だと思っている。講演会の後、講師の先生に文化芸術センターの中を見てもらって感想を伺った。芸術に特化するのか、市民が使いやすく、集える場所にするのかという話をした。私は市内の活動が横につながることを目指して、市民が楽しく利用できて、つながりを持って発展する集いの場所にしたいと思っている。子どもも大人もいつでも自由に寄って芸術に触れられる場所にしたいと考えている。また、来年4月に文化芸術センターの指定管理者が交代するタイミングで新たな取り組みができると思っている。講師の先生からアドバイスもいただきながら文化芸術センターをよりよい場所にしていく。

- シ 文化芸術センターの目指す姿というのがとても高い設定になっている。目標は変えてもいいのではないかと考えている。
- ス 【市長】時代の変化に伴って文化芸術センターの目的も変わってくると考えている。時代の変化に沿って目的を変えることは可能であるし、今後も変わってくると思う。人の考えや思いが変わっていったときには文化芸術センターの新しい使われ方が見いだされるかもしれない。市民のための集いの場としていこうと考えているため、目的は変更する方向で検討していく。目的を変更する際には、変更する理由やコンセプトを示さないといけないため、ご意見をいただきながらお力添えをいただきたい。また、施設の愛称を募集しようと考えているため、その際にはご意見をいただきたい。
- セ 文化芸術のいいところは何一つ同じものがなく、オリジナルがあり個性がある。個人的には子どもの作品が好き。文化芸術活動でまちをいきいきさせるアイデアとして、子どもたちと一緒に「アート之力」で地域社会に貢献する取り組みの実証実験を11月15日から開始する。学校で制作した子どもの作品を地域のクリニックにホスピタルアートとして使ってもらう。クリニックには芸術文化基金に寄付してもらい、その寄付金が地域社会に還元されて好循環が生まれる。作品を提供した子どもはチャリティー活動に参加したことになる。また、寄付の一部は子ども通貨というポイントに変換して、子どもはその通貨で最寄りのコープで買い物ができ、コープは売上の一部をコープみらい社会活動財団へ寄付し地域社会に還元するという仕組みである。通貨も子どもがデザインできるアナログ形式で考えている。アートは様々な分野のものでいいし、展示・披露する場所もどこでもいい。この取り組みには宝塚市にとって3点いいことがある。1点目は地域経済が循環する。2点目は寄付を集める仕組みづくりができる。3点目は子どもがチャリティーを経験する。賛同いただける方がいらっしゃったら協力いただきたい。
- ソ 【市長】経済というところに目を向けていただいて、経済が循環するということがすごくいいと思った。宝塚市は住環境が整っていて、市外で仕事、買い物するためあまり市内の経済が回らない。寄付は経済活動だという話も聞いたことがある。寄付は、活動への思いやストーリーの一端にお金を払うということであるため、そういう活動も活性化していかないと経済は循環しない。この取り組みはそれが組み込まれているため素晴らしいと思った。行政でできることがあれば、バックアップさせていただければと思う。
- タ 私が幼少期の時、宝塚音楽学校に通う生徒や宝塚映画製作所に向かう俳優を見かけることがあって、子どもながらに芸術文化の雰囲気を感じていた。また、手塚治虫氏が宝塚市に住んでいたことはとても誇りに思う。市内のイベントにはできるだけ参加して、脳の活性化、心を満たすために文化芸術に触れていきたい。宝塚市の歴史にも興味があるため勉強したいと思っている。
- チ 【市長】文化芸術で人の心が満たされることが一番大事だと思っている。少年少女合唱団の団員が海外で活動する時に、言葉は通じなくても同じ歌を歌うだけで友達になれると言っていた。言葉を超えて同じものを共有することで歩み寄って近くなれる。それが相互理解であり、

相手を尊重することであると思う。宝塚市の歴史や文化に興味があれば、ぜひ宝塚学検定のテキストを手にとってもらえると嬉しい。

- ツ 7年前から水彩画を習っている。宝塚市には多くの絵画教室があつて、絵を描かれている方が多い。しかし、発表の場があまりない。発表できる場が安価で用意されていたら嬉しいと思う。また公民館で小中学生の作品が展示されており、とても元気が出る。
- テ 【市長】作品発表の場や気軽に作品を鑑賞できる場として公民館や文化芸術センター等があるが、壁の大きさが限られており、たくさんは飾れなかったり、文化芸術センターも少し狭いところのご意見をいただいている。
- ト 【産業文化部】国際・文化センターは比較的安価で長年親しんでいただいている。小さな取り組みではあるが、文化芸術センター1階では、お子さんの作品を展示する企画を行っている。気軽に見ていただき、ふれあいが生まれるような取組を今後も行っていきたいと考えている。
- ナ 自宅の壁に孫や近所の子どもが描いた絵画を貼っている。文化芸術センターに行つて絵画を見てゆっくりするのが楽しみになっている。文化芸術センターの愛称を募集されるということで、親しみやすい名称になればいいと思う。
- ニ 【市長】文化芸術センターで絵を見て、緑の中で時間を過ごすことが楽しいというご意見は嬉しく思う。市民に宝塚市の良いところを聞くと、生活の近くに緑があつて静かな住環境が良いとおっしゃる方が多い。できる限り皆様がゆっくりと過ごしていただけるようなまちを目指していきたいと思う。
- ヌ 文化芸術センターの陰のところに椅子を置いてほしい。
- ネ 【産業文化部】おおやね広場に椅子を置いているが、イベント等のため撤去している場合もある。確認する。
- ノ 自閉症で人とつながることが難しい。言葉が少ない、同じことばかり言う障害者は分かっていないという先入観で見ている人が多いと思う。また、人の役に立ちたいと思つていても相手に分かってもらえず困っている人が多い。ある研修会で筆談を教わり、気持ちを伝えることができるようになった。しかし、気持ちを伝えることに困っている人はまだたくさんいる。コミュニケーションをとることで文化が発展していくと思うので、宝塚市でも理解が広がって、誰もが平等で暮らしやすいまちになってほしいと願っている。
- ハ 【市長】宝塚市では様々な課題を抱えている児童も普通学級で生活できるように努力している。特別なことではなくその子の個性として受け入れていくものだと思つて子どもの時から理解をしていく。大人になった時に相手への理解、関わり方が変わってくると思つて進めている。平田オリザ氏の演劇的手法を用いた授業を小学生全員が受けていて、脚本、配役は子どもたちが決めて、様々な課題を抱えている子も一緒になって取り組んでいる。宝塚市はありのままに相手を受け入れるということを大事にしていくという考えでいる。今日のお話は福祉の担当課から連絡をさせていただきたいと思つている。
- ヒ 安心して暮らせるまちになるためには文化が必要だと思つていて、特に宝塚歌劇等の宝塚市の文化は貢献できるのではないかと思っている。心を満たす、人に感動を与える宝塚歌劇に

興味を持って九州から引っ越してきた。これからも文化芸術のまちとして発展していくように願っている。

フ 【市長】宝塚市は宝塚歌劇とは切り離せないまちになっているし、映画のまちとして舞台や演劇の文化も根付いている。海乃美月氏も宝塚市大使に就任いただいて、今後宝塚市の名を全国・世界に広めてくださる方だと思っている。宝塚歌劇が好きで今日参加して下さったのは大変嬉しい。

ヘ 何かを作るときは楽しくて笑顔になるし、嫌なことも忘れられる文化芸術はいいなと思う。専門家しかできないというイメージがあるが、素人でも一歩踏み込むと素晴らしい活動ができるというのがいいところだと思う。文化芸術について話したいという人はたくさんいると思うので、そういったことを話せる場所をつくることで活動がつながっていくのではないかなと思う。また、子どもたちにも話せる機会が増えたらいいと思っている。

ホ 【市長】市民の皆様には、芸術文化が根付いて心豊かに笑顔で過ごせることを目指している。職員と協議をする際に、やろうとしていることがどのように市民の幸せにつながるかという問いかけをする。行政が行うことは、税金をいただいて、その税金に付加価値を付けてサービスとして返す。そのサービスは皆様の笑顔にするものである必要があると思っている。宝塚市の特徴として文化芸術が皆様の心にあるまちであることだと思っている。

3. 閉会

(1) 市長挨拶